

平成28年 町長施政方針 (その1)

3月2日、平成28年第1回定例会の開会にあたり、勝田町長が施政方針演説を行いました。(内容を一部抜粋して掲載しています。)



— 地方創生

現在の世界経済は、中国の景気減速による先行き不安な状況で、我が国でも円高・株安が輸出型企業の業績に悪影響を及ぼし、日本経済の足を引っ張る懸念が高まっています。

このような状況の中、我が国では、人口減少の克服と地方創生を実現し、将来にわたって活力ある日本社会を維持することが喫緊の課題となっています。

本町では、昨年10月末に「奥出雲町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、今後5カ年間にわたって重点的に取り組むべき課題を抽出し、その解決策を具体化しました。

平成28年度当初予算では、普通交付税の減少、扶助費を中心とする社会保障経費の増加など、厳しい財政状況でありましたが、「総合戦略」を実行するための予算には、最大限の配慮をしたところです。

なお、国の地方創生加速化交付金により、たたら製鉄を活用した観光振興や、算盤や刃物製作等の伝統産業の振興を目指す「伝統産

業・観光産業の振興事業」などの経費を、今年度の補正予算に計上しました。

これら地方創生加速化交付金の事業は来年度に繰り越すこととしていますので、当初予算と一体的に、本町の特色を生かした、人材育成、雇用創出の取組みをさらに推進します。

その他、ふるさと奥出雲を愛する「ひとづくり」を進めるため、地域外の人材を積極的に誘致する「地域おこし協力隊」をはじめ、UITAインの受け入れ環境の整備を、引き続き行います。

また、新しい産業づくりを進めるため、鳥根県東京事務所に町職員を派遣し、企業誘致など、新たな「しごとづくり」の取組みも進めていくこととしています。

更に、人口減少が早く進む中山間地域においても、今後も安心して住み続けることができるよう、日常生活の機能の一定の集約を図る「小さな拠点づくり」について、自治会長や町民の皆様方との検討を進めます。

— 予算の概要

予算については、いずれも喫緊

の課題に対し、迅速かつ適切に対応することを念頭におき、編成しています。

まず、今年度補正予算は、総額では6億2800万円の減額であります。国の地方創生加速化交付金を活用した地方創生事業を9000万円追加しました。

具体的には、たたら製鉄をテーマにした観光産業と伝統産業の振興による「しごとづくり」の事業と、高校魅力化を鳥根県全体で推進する「ひとづくり」の事業です。

次に、来年度の当初予算では、低迷の続く町内景気や人口減少問題、公共施設の老朽化など本町に山積する諸課題に対応すべく、国、県の補助事業を積極的に活用し、施策を推進します。

また、生活インフラ整備の他、雇用・定住対策、産業振興、子育て支援、福祉・医療・教育の充実など、町の振興、町民生活向上に資する事業に対し、配意した予算としています。

この結果、来年度当初予算の総額は148億8000万円で、今年度当初予算に比較して0.8%、1億2000万円の減額となりました。

— 社会基盤・生活基盤整備

生活道路の整備については、三沢山根線、福頼線等の継続実施する14路線を、引き続き改良整備の進捗を図ることとしています。

また、新たに高尾線、湯の原線など5路線の整備に向けた調査を開始することとしました。

県事業については、現在整備中の国道・県道や河川などの各事業について、早期完成に向けた要望を継続します。

次に、簡易水道事業についてです。来年度は、八川第2簡易水道統合事業および遠方監視装置統合事業を継続実施するほか、平成29年度における簡易水道施設の統合に必要な準備経費を計上しました。

今後、町民の安全安心な生活環境の維持・向上を図るため、将来の財政負担にも留意しながら、施設の老朽化対策などを進めます。

次に、下水道事業についてです。来年度は、合併処理浄化槽の設置を20基計画している他、インフラ長寿命化計画による農業集落排水施設の機能診断などを引き続

き実施します。

また、将来の下水道経営の指針とするため、下水道施設の固定資産台帳を作成することとしています。

今後、生活環境の向上と水環境の保全を図るため、施設の良好な維持管理と経費節減に努めながら、住環境リフォーム助成制度などを通じて、接続率の向上に努めます。

次に、農村整備事業についてです。区画拡大や暗渠排水などにより耕作条件を改善し、農地の集積・集約化を加速させる「農地耕作条件改善事業」を新たに実施する他、「農業基盤整備促進事業」



今年開業100周年を迎えるJR木次線(昭和30年ごろ)

などを継続実施します。

また、県事業としては、継続事業である「上三所中村農道」や「才積谷ため池改修」の用地補償や工事が計画されています。

なお、道路や橋などのインフラの老朽化対策については、横田西農道に架かる「たたら大橋」の塗装塗り替え工事をはじめ、町道についても橋梁長寿命化のための修繕事業を進めます。

その他、来年度の携帯電話等エリア整備事業については、鳥上地区の追谷地内へ、新たな基地局を整備する予定であり、今後も、積極的に携帯電話の不感地域の解消に取り組む考えです。

また、地域の重要な公共交通機関である「JR木次線」が、今年、前身の簸上鉄道から数えて、「開業100周年」を迎えることから、JRや関係自治体などによる記念行事を、10月に開催する計画です。

昨年秋の「JR三江線の廃止検討」のニュースは記憶に新しいところですが、開業100周年を契機に、「JR木次線」の存続に向けた取組みを、関係機関が一体となり、より一層強化します。

